



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
 兵庫県育成会施設保護者協議会
 〒659
 芦屋市楠町16番5号
 発行責任者 堺 敦
 印刷所 株式会社アカツキ印刷
 〒652
 神戸市兵庫区荒田町1丁目2-10
 電話 (078) 511-8470

「障害者プラン」に期待

兵庫県精神薄弱者愛護協会副会長
 三木精愛園 園長 野田稔夫

阪神・淡路大震災から一年余りが過ぎ、被災された施設関係者の皆様方は、復興に日夜ご尽力されていることと存じます。

復興に当っては、障害者や高齢者など災害弱者に希望をとし、生活を立て直す支援をすることであると考えます。ボランティア活動や近隣の相互扶助から得たことは、「人間はひとりでは生きていくことはできない。お互いに支えあい共に生きる地域社会を創らなければならない。」という共生社会の思想であつたと思います。これらの体験からの教訓を胸に、復興の支援をしていきます。

平成七年十一月に開催予定の「ゆうあいピック兵庫大会」が、宿泊施設や交通手段の確保が困難等の事情から中止になったことは、誠に残念でありました。

全国の関係施設の皆様方から寄せられた心温まるご支援と励ましに感謝し、新たな復興に向けての目標づくりのために、早期実現に関係者が連携して努力しましょう。

さて、このたび保健・福祉、教育雇用、住宅など広範囲の分野を総合した「障害者プラン（ノーマライゼーション七か年戦略）」が政府から発表されました。

「障害者プラン」の策定で、「新ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）」、「エンゼルプラン（子育て支援のための総合計画）」と併せて、福祉先進国にふさわしい水準の社会保障・保健福祉政策の三本柱が出そろったところです。

「障害者プラン」の基本構想は、①地域で障害者が障害のない人とともに生活すること（ノーマライゼーション）への支援体制の整備 ②障害者の社会的自立の促進 ③障害者の活動の場を広げるための道路、駅建物などの物理的障壁の除去（バリアフリー） ④文化、スポーツ、レクリエーションなどの交流を通じた生活の質の向上 ⑤防犯・防災体制の整備 ⑥子供のころからの障害者との交流やボランティア活動の推進 ⑦国際的な協力・交流、の七つの柱

からなっています。

主な数値目標は、▽グループホーム・福祉ホーム 五千人分から二万人分 ▽授産施設・福祉工場 四万人分から六万八千人分 ▽ホームヘルパー 四万五千人上乗せ ▽ショートステイ 一千人分から四千五百人分 ▽デイサービス 五百か所から一千か所 ▽知的障害者の更生施設 八万五千人分から九万五千人分となっています。

一方、兵庫県福祉部は、平成七年五月に「すこやかひょうご障害者福祉プラン（兵庫県障害者福祉新長期計画）」が策定されています。

このプランは、「ひょうご高齢者保健福祉二〇〇一年計画」及び「福祉のまちづくり条例」に基づく各種事業の趣旨や整備目標との整合を図りながら、障害者の教育、雇用、保健・医療、福祉、生活環境等の施策が明らかにされております。

私も愛護関係者は、この二つのプランの実現に期待するとともに、二十一世紀にふさわしい平等と人権の社会づくりの実現に向けて一翼を担いたいものです。

平等と人権の社会づくりに向けて障害者への心のバリア（障壁）を除くことが第一歩だと思います。

それぞれの立場で、連携協力しながら、一層の努力を誓う次第です。

第四回

ひょうご・ゆうあい・スポーツ大会

平成七年十月八日(日) 小野市大池総合公園など五つの会場において、第四回ひょうご・ゆうあい・スポーツ大会が開催されました。

この大会は知的障害児者のスポーツの一層の発展をはかるとともに県民の知的障害児者に対する理解と認識を深め、知的障害児者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。

主催は兵庫県・小野市・兵庫県精神薄弱者愛護協会・兵庫県精神薄弱者育成会・財団法人兵庫県障害者スポーツ協会です。特に今回は小野市及び小野市社会福祉協議会の物・心両面にわたる絶大な協力と地元の体育協会をはじめ各競技団体のご支援をいただきました。

今年は兵庫県で「ゆうあいピック全国大会」が開かれる予定でしたが、あの阪神・淡路大震災により中止を余儀なくされました。一時はこのひょうご・ゆうあいスポーツ大会も開催が危ぶまれましたが、関係者のご尽力により開催する事が出来ました。

当日は小雨がばらつき、不安定な天候でしたが、県下各地から、選手

一六五〇名と職員・保護者をあわせて二五八八名が集い、心と体をリフレッシュし、有意義な一日を過ごしました。

競技も定着し、陸上競技の他に卓球、ボーリング、フライングディスク、水泳、バレーボール、サッカー、ソフトボール、フットベースボール、バスケットなど、熱戦が繰り広げられました。

今年は運営について二つの課題を残しました。第一は、競技責任者は配置していたが、セレモニー関係の部門責任者との連携がうまく行かなかった事。第二に、運営委員会内部の役割分担が実働的に機能しなかった事です。

これらについて五つの反省をしています。

第一に、愛護協会は大会準備及び運営面においてその役割と責任の所在を明確にする事。

第二に、他の構成団体と共に組織的活動が出来る様、早期準備委員会(仮称)を設置する事。

第三に、競技、財政、式典、会場、

総務等の部門を明確にし、責任者との連携を徹底する事。

第四に、競技団体との連携を強め、その役割分担を明確化する。また、準備段階の出来るだけ早い時期に、具体的な協力態勢を整えておく事。

第五に、兵庫県障害者スポーツ協会の強化し、その組織的実戦力を充実させる事。

大会理念に沿った大会運営が出来る様、今後も関係者の皆様のご協力とご理解を宜しくお願い致します。



団体競技の結果は以下の通りです。

▼バレーボール 男子

一位 阪神養護学校尼崎分校

▼バレーボール 女子

一位 栗の木荘

▼ソフトボール

一位 春日育成苑 三美育成寮

二位 養徳会

▼フットベースボール

一位 六甲園

二位 もみじ会

三位 養徳会

▼バスケットボール 男子

一位 赤穂養護学校

二位 共に歩む会

三位 神戸明生園

▼バスケットボール 女子

一位 もみじ会

二位 神戸明生園

▼サッカー

一位 共に歩む会

二位 三美学苑

三位 いなみ野養護学校

(文責 スポーツ担当 福田和臣)

平成七年度

「愛護の集い」

―人も街ももつとやさしく―

恒例の「愛護の集い」が9月21日(木)のじぎく会館に於いて開催された。育成会四名、保護者一五二名、施設からは施設長六三名、職員代表五十名の総勢二六五名の参加を得た。四団体がこのようにひとつとところに集うのは震災後これが初めてであり昨年は参加者三百七名だったことを考えると、まだまだ多くの方々が震災の影響下におられるものと思われる。

藤原治育成会理事長の挨拶に引き



続いて行政、関係団体来賓の祝辞を頂戴した後「阪神・淡路大震災での教訓」という統一テーマで実践報告に移った。報告者は次の通り。入所施設の立場から・皿海碩砂子療育園事務長、通所施設の立場から・原田和明すずかけ作業所主任指導員、生活ホームの立場から・山本博県育成会生活ホーム部長、小規模作業所の立場から・川崎富子なかしクラブハウス代表。

昼食休憩をはさみ、津田公子さんのエレガントなフルート演奏を楽しんだ後、金附洋一郎氏(県社協副会長)による「共生の時代を生きる」という演題の講演を拝聴した。最後に大会宣言を採択し、堺 執愛護協会々長の挨拶の後、定刻通り閉会した。

◎ 大会宣言

- 一、あらゆる災害から利用者の安全を守る対策を講ずる。
- 二、スポーツ、文化活動の場を広げ豊かな生活をするための支援をする。
- 三、知的障害者の権利擁護のために相談事業及び制度を整理する。
- 四、震災復興対策の立場から生活ホーム、小規模作業所の充実を図る。
- 五、すべての人の参加による障害者にやさしい街づくりを強く進める。

♪夢と希望をリズムにのせて♪

―第4回ひょうごうあい音楽祭―

秋深い、十月一日(日)、多紀郡篠山町の「たんば田園交響ホール」で開催した。

出石精和園のミュージックグループの「サザエさん」の軽やかなリズムで、華かに開催の幕が上がり、釜本兵庫県福祉部長のあいさつで始まった。

この音楽祭もすでに四回を重ね、出演者の演奏力もすばらしく向上しステージと客席が一体となり、心はずむ楽しい音楽祭となった。

プログラム

〈オープニング〉

◇ミュージックベルグループ

(出石精和園)

- ・サザエさん ・ドレミの歌
- ・遠き山に日は落ちて

◇銭太鼓グループ

(出石精和園)

- ・お米さんありがとう音頭
- ・河内男節

〈第一部〉

◇宝塚コスモス21

(宝塚市育成会)

- ・スッペの序曲 ・宝塚賛歌
- ◇トライアングル(尼崎市育成会)

- ・友達だから ・夢の世界
- ・野に咲く花のように

◇グループゼロ(伊丹市親の会)

- ・しあわせ作ろう

◇丹南精明園音楽班

- ・川の流れるように ・柔
- ・お祭りマンボ

〈第二部〉

◇シルバーエコーささやま

(篠山音楽協会)

- ・喜歌劇こうもりからのワルツ
- ・トリツチ・トラツチポルカ

◇証城寺の狸囃子

◇コロポック(中播磨育成会)

- ・南の島のハメハメ
- ・森のくまさん
- ・もしも空から

◇篠山養護学校高等部

- ・篠養太鼓 ・校歌
- ・記念樹

◇グループボブラ

(ボブラの家・たんば園)

- ・知床旅情 ・希望の郷
- ◇さんだわいわいクラブ

- ・ドレミの歌 ・オプラデオ

◇グループ ドレミ

(多紀通園センター)

- ・おうま ・どんぐりころころ
- ・小さな幸せさがそう

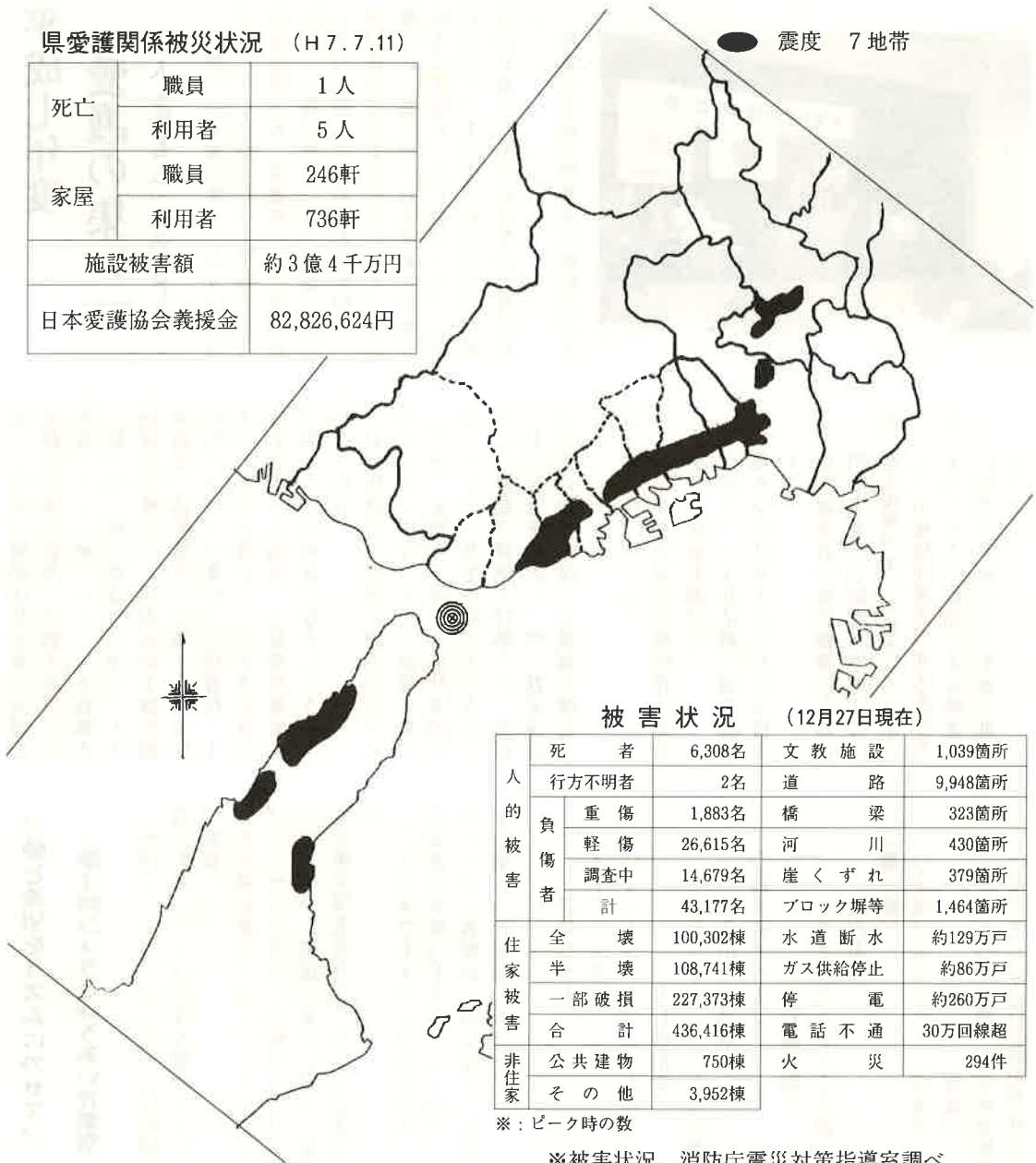
〈ファイナーレ〉

- ・みんな歌おう 一人の手

県愛護関係被災状況 (H7.7.11)

死亡	職員	1人
	利用者	5人
家屋	職員	246軒
	利用者	736軒
施設被害額		約3億4千万円
日本愛護協会義援金		82,826,624円

震度 7 地帯



被害状況 (12月27日現在)

人的被害者	死者	6,308名	文教施設	1,039箇所
	行方不明者	2名	道路	9,948箇所
	重傷	1,883名	橋梁	323箇所
	軽傷	26,615名	河川	430箇所
	調査中	14,679名	崖くずれ	379箇所
	計	43,177名	ブロック塀等	1,464箇所
住家被害	全壊	100,302棟	水道断水	約129万戸
	半壊	108,741棟	ガス供給停止	約86万戸
	一部破損	227,373棟	停電	約260万戸
	合計	436,416棟	電話不通	30万回線超
非住家	公共建物	750棟	火災	294件
	その他	3,952棟		

※：ピーク時の数

※被害状況 消防庁震災対策指導室調べ

震災一年を経て

平成七年一月十七日午前五時四十分の阪神・淡路大震災から一年が経過しました。十数秒の出来事ながらも、癒し難い重荷と課題を、社会に、組織に、家族に、個々人に、物心に互って与え続けています。超大なマイナスと暖かい援助のプラスの精算は到底できません。

今それぞれの施設においてどのようにに総括がされようとしているのでしょうか。まだ、状況が重すぎて触れることができないとこや、すでに、震災にそなえて整備していること、施設によって様々でした。

全施設はできませんでしたが、電話による聞き取り調査では、復旧状況・震災対策については表のような結果でした。被災経験が地域により全く異なり、結果としてその対策も異なっています。また、入所、通所、公立、民間、避難所になったところ、ならなかったところ、児童、成人、では当然利用者、従事者の発生直後からの動きも大変異なっていたし、また、次にあったとしても、今回とおなじく異なるでしょう。手の打ちようがないといった思いを持たれている施設が、大半だったのが心に残っています。

震災1年での被災復旧・防災整備状況

調査施設所在地		神戸市			芦屋市			西宮市			尼崎市			宝塚市			伊丹市			五色町			合 計		
調査項目		入 通 計			入 通 計			入 通 計			入 通 計			入 通 計			入 通 計			入 通 計			入 通 計		
調査施設数		10	14	24	2	1	3	6	4	10	1	5	6		4	4	1	3	4	2		2	22	31	53
復 旧 状 況	全 面 復 旧	7	9	16	1	1	2	6	3	9	1	5	6		2	2		3	3	2		2	17	23	40
	復 旧 中		3	3	1		1								1	1							1	4	5
	未 復 旧		1	1																				1	1
	被 害 な し	3	1	4					1	1					1	1	1		1				4	3	7
防 災 計 画	立 案 済	2		2				3		3	1	1	2		3	3				2	2		8	4	12
	立 案 中		10	10	2	1	3	1	3	4		2	2										3	16	19
	無 変 更	8	4	12				2	1	3		2	2		1	1	1	3	4				11	11	22
地 震 設 備	設 置 済	1	1	2								2	2		1	1							1	4	5
	検 討 中							3		3									2	2		5		5	
	設 置 せ ず	9	13	22	2	1	3	3	4	7	1	3	4		3	3	1	3	4				16	27	43
連 絡 体 制	新 体 制	4	2	6													1		1				5	2	7
	検 討 中							3		3													5		5
	無 変 更	6	12	18	2	1	3	3	4	7	1	5	6		4	4		3	3				12	29	41
避 難 方 法	新 方 法	4	1	5	2	1	3	3		3		2	2		1	1							9	5	14
	検 討 中							1		1													3		3
	無 変 更	6	13	19				2	4	6	1	3	4		3	3	1	3	4				10	26	36
食 料 備 蓄	備 蓄 済	9	3	12	2	1	3	2		2	1	2	3		1	1	1		1				15	7	22
	検 討 中		1	1				3	1	4					1	1							3	3	6
	し て な い	1	10	11				1	3	4		3	3		2	2		3	3				4	21	25
当 時 避 難 者	あ り (地 域)		3	3	1		1										2	2					1	5	6
	関 係 者	2	5	7				2		2					1	1							4	6	10
	な し	8	6	14	1	1	2	4	4	8	1	5	6		3	3	1	1	2	2	2	2	17	20	37
現 在 避 難 所 指 定	あ り		1	1													3	3					4		4
	な し	10	13	23	2	1	3	6	4	10	1	5	6		4	4	1		1	2	2	2	22	27	49

(1996.2.27現在)

震災関連記録出版物

・阪神・淡路大震災の復興に向けたメッセージ 兵庫県地域政策研究機構	H7.4
・阪神・淡路大震災救済ボランティア活動報告書 全国VYS連絡協議会	H7.5
・兵庫県南部地震 被災重症児施設からの報告 甲山福祉センター	H7.5
・阪神・淡路大震災(障害者支援活動のまとめ)	H7.5
・じんがきた 阪神・淡路大震災被害者支援センター合同対策本部	H7.6
・震災の記録 三田谷治療教育院	H7.7
・震災と闘った親子 100人の証言 兵庫県精神障害者育成会	H7.7
・明日への道 阪神・淡路大震災高校生進路交流文集	H7.7
・阪神・淡路大震災 兵庫県1ヶ月の記録 NHK厚生文化事業団	H7.9
・阪神・淡路大震災と家族 面接調査による事例研究報告書	H7.7
・阪神・淡路大震災 ひょうご創生への提言 ひょうご創生研究会	H7.7
・阪神・淡路大震災の記録 あすへの息吹 兵庫県障がい者連絡協議会	H7.7
・阪神・淡路大震災支援活動概況 滋賀県社会福祉関係者阪神大震災支援対策会議	H7.4
・阪神大震災復興 仮設ホームができた あおば生活ホーム建設報告書	H7.9
・阪神・淡路大震災 救済活動報告書 済生会	H7.10
・やさしかったね、神戸 阪神・淡路大震災 ボランティア活動報告 ユニササービス	H7.10
・コップボランティア100日の記録 一九九五年一月十七日～四月二十七日 生活協同組合コップこうべ	H7.6
・あの日から今日までそして明日へ 長田福祉事務所の記録 神戸市長田福祉事務所	H7.10
・一九九五・一七 阪神大震災活動記録 ホームヘルパー奮闘機 神戸市長田福祉事務所	H7.9
・せいようひがし再生 95 神戸市立青陽東養護学校 4 診療所からの報告 神戸市健康共和会	H7.9
・いま神戸から 続・震災の真ん中で 東神戸病院	H7.9
・一九九五年一月「阪神大震災」下の精神科医たち みすず書房	H7.5
・野の花のうたが聞こえますか 伊丹市立伊丹養護学校	H7.9
・阪神大震災と市民ボランティア 岡山からの証言と提言 山陽新聞社	H7.11
・非常災害時対応マニュアル 日本栄養士会	H7.11
・ボランティアはいかに活動したか 震災60日もうひとつの阪神大震災記録 NHK出版	H7.11
・障害者達の14日 阪神・淡路大震災と集団避難生活	H7.8
・えんぴつの家 ライフデイクー 垂水障害者支援センター	H7.8
・震災の記録 神戸市公立幼児通園施設	H8.1
・阪神・淡路大震災 神戸市の記録 一九九五年 神戸市	H8.1
・阪神・淡路大震災 記録提言集 兵庫県阪神・淡路大震災復興本部	H7.7

△参考 県社協「社会の福祉」・「月刊福祉」・「毎日新聞社」等より▽

○神戸市

神戸市はJ.R兵庫南側、キヤナルタウン兵庫の東街地区に31階建ビルを建設し、2階・4階を神戸市中部在宅センターとする。

2階は定員30名の知的障害者通所授産施設「ワークセンターひょうご」と就労推進センターで、2年間の有期限とし就労を目指す。

3階は老人・身体障害者・知的障害者のデイサービス事業と入浴サービス及び心身障害者の昼間一時保護事業をメニューとする中部在宅サービス

4階は定員60名の知的障害者通所更生施設「自立センターひょうご」である。

全体として7事業を行う。これらは、神戸市が(福祉)神戸聖隷福祉事業団へ運営委託し平成8年4月オープン予定。同事業団では新規職員の採用もおり開設準備に追われている。

○加古川市

加古川市は「加古川はぐるまの家」の隣接地に知的障害者総合支援センターを建設中で平成8年4月オープン予定である。センター事業は・定員40人の入所更生施設

・ショートステイ 4人

・地域交流センター

・デイサービス基本型 15人

・就労支援センター

・自立生活訓練センター

等行うものである。市単独事業としての入所更生施設は県下で初めてであり、就労支援センターも神戸市の就労推進センターと並んで今後の活躍が期待されるものである。

○社会福祉法人恩鳥会では、平成7年度8年度2ヶ年事業として、定員

あすのひょうご

施設関係

50人の入所更生施設を建築中である。通所更生施設「ポプラの家」の利用者の高齢化に伴い要望がだされてい

たもので、国、県、氷上郡6町の補助金で建設される。同法人では現在、

定員30人の通所更生施設「ポプラの家」と定員30人の通所授産施設「たんば園」を運営しているが、入所施設完成後は「ポプラの家」は閉鎖する計画である。開設は平成8年10月の予定。

○震災の影響で名神高速道路全面補

修工事に伴い立ち退きを迫られていた、社会福祉法人一羊会の通所授産施設「第2すずかけ作業所」(西宮市在)は、西宮市西宮浜3丁目に建物の新築移転を計画中。現在、補助金申請中で補助が決定すれば、本年秋にも可能の見通し。市街から遠いので、移転に伴い、介助の必要な半数の人の通園の負担が保護者にかかることと予測されている。なお、現在地は高速道路補修後、同法人労働センターが引き続き残る予定である。

○入所更生施設

「三美学苑」(氷上郡山南町)では平成7年度、8年度事業として、予てから懸

案中だった、施設全面建て直しが行われている。建物は半分づつ建て替え、平成9年10月に全館新装になる予定。

○社会福祉法人 愛心会の入所更生

施設「愛心園」は、定員20人の重度棟を建築中である。県内の重度知的障害者の入所ニーズが強いいため、要請に応えようとするものである。

○社会福祉法人「樞の木福祉会」では、入所更生施設を建築中。同法人

運営の児童施設の年令超過の人や、授産施設での高令の人たちのため、建設するものである。施設の流動性を図ることも大きな目的としている。

○平成8年10月1日オープンの予定定員50人内重度棟20人。ショートステイ6人。新施設名は「あさぎりの里」である。



「平成8年度総会のおしらせ」

平成8年度総会を次の通り開催いたしますのでご出席ください

日時 平成8年四月二十四日(木)
午後一時半より

場所 六甲荘(鶴の間)

議案

平成七年度事業報告
平成七年度決算報告

役員選出

平成八年度事業(案)

平成八年度予算(案)

その他

以上

「あの日の記憶」

伊丹市立さつき学園

井手口 敏郎

あの日のあの瞬間、ガラスの破片の中、また同じ振動が来る事を私は疑わなかった。そんな考えが、私を咄嗟に職場へと急がせたのだった。

道々に電線は垂れ落ち、隣人の禅寺の本堂はこっそりと削がれていた。闇の中で鍵を捜し、やっと点けたラジオで京都の寺で数枚瓦が落ちたとの被害第一報を聞いた。マス情報は無力だった。そして、今の自分もそうだと思った。そんな時ガスの異臭が鼻を突いた。見ると向かいの団地の人達がみんな外に出ていた。一瞬その多さに戸惑ったが、毛布姿の人達に寒いのでどうぞ、と学園に誘った。それが2週間に渡る避難所の始まりであった。

8時、負傷された避難者を車に、市立病院へと向かう。途中の道は地割れだらけだった。正面に車を付け、ロビーの床に溢れるけが人と血を見てようやく、被害が広範囲に渡ることを知った。

9時、園長指示によりA公園に水を汲みに行く。30分以上かけて、ペール缶3つをたった1本の細い流れで満たす。ひどく長い時間に感じられ

た。しかしその後2月5日迄、毎日2回3回とこの儀式が続くのだった。

10時、園生家庭の安否確認に走る。近くは自転車、遠くは公衆電話の列を捜して並ぶ。1度繋げるのに10円玉を何回も入れながら、後ろに頭を下げてダイヤルを続けた。

13時、救援物資の配達のために本庁へ。事前に道路被害等を互いに交換してはいたものの、S小学校までの2kmの道のりに1時間位かかった。やっと校庭に入ると、口々に給水車はまだかと聞かれ、答えに窮した。パンを配り終え帰ると、もう夕食を運ぶ時間。夜になってどこでも人が増えており、おにぎりが全く足りなかった。

24時、続々とトラックがやって来た。今運んでいるこの毛布は、どこかの倉庫に眠っていた物だろうか、全てを降ろした後は私もホコリだらけになっていた。

あの日から避難所の対応、園生と家庭への対応、救援物資の收受と配達、頭も体も四分五裂の毎日が続くが、それを支えたのはインフォーマル情報の数々と、何でもやらなきゃ精神だった。

そしてそんな私を衝き動かしたのが、多くの市民の方々の悲しみや憤り、そして不安の顔だったのだと思っている。

精神薄弱者早期自立促進

支援事業のご案内

(県立精神薄弱者更生相談所より)

平成6年度より実施している本事業は、施設入所中の知的障害者の早期自立をはかるために、各施設のご協力をいただいて進めています。

6年度は19名を対象に、ななくさ育成園(4名)、西宮市立名神あけぼの園(8名)、伊丹市立くすのき園(4名)、すずかけ作業所(3名)のご協力を得て実施しました。

今の生活よりも少しでもステップアップをした生活ができるように、施設職員の方と精神薄弱者更生相談所の職員、障害児・者教育の学職経験者等が検討し、各自の個別援助プログラムを提供して、施設で援助していただくものです。

約3ヵ月毎に施設を訪問し、個別援助プログラムの評価と修正を行い、目標(課題)達成に近づけていくものです。

6年度は年度途中で阪神大震災に見舞われ、完全実施できなかった施設もありますが、職業前訓練の場である阪神友愛食品K。K能力開発センターへ進んだ人が2名あったほか就労に向けて必要なスキルを一つ一つ身に付けていった人もいます。

7年度は21名を対象に、ななくさ育成園(3名)、芦屋翠ホーム(3名)、西宮市立名神あけぼの園(6名)、伊丹市立くすのき園(4名)、塚口福成園(5名)のご協力を得て進めています。

詳細は「精神薄弱者更生相談概要1994」8頁～9頁の本事業実施要綱をご覧ください。

8年度にご協力下さる施設を募っています。お問い合わせは

TEL 078-242-0737
FAX 078-242-0736

平成8年度

主な 行事予定

(決定した行事のみ)

4月24日 県愛護協会総会

5月11日 第5回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会(高砂)

30日 全国精神薄弱施設長会議

31日 (東京)

7月24日 第20回「希望の旅」

25日

9月11日 第34回全国施設職員研究

13日 大会 (富山)

25日 愛護のつどい

1月17日 関係四団体賀詞交換会

施設紹介

〈知的障害者通所更生施設〉

社会福祉法人 福成会

杭瀬福成園

所在地 尼崎市杭瀬本町三丁目五番

十七号

電話 (〇六) 四八一―九七九七

設立 平成七年十一月一日

定員 七十五名

施設長 藤園 洗二

職員数 十七名(嘱託医一名)

沿革

尼崎市内の増加する知的障害者の



在宅希望に依えて、尼崎市精神薄弱者育成会の協力のもと、福成会3番目の施設としてオープンした。

施設運営方針

利用者が社会の一員としての個人の尊厳を重んじられ、一人一人が利用者としての主体的な立場にあるとの認識のもとに、その能力と最大限の可能性を発揮せしめるよう、訓練援助等最適なサービスを提案する。

指導内容

利用者個々の能力、家庭環境、将来の確実な展望等に基づいた明確な目標を定め、施設と家族が分かたべき役割を双方確認し、一貫性のある処遇を図る。そのうえにたつて、更生施設として幅広い利用者であることを考慮し、

(1) 快適な通園生活が送れる生活環境の提供

(2) 基本的生活習慣の確立

(3) 作業を通じて一人一人が持っている能力を引き出し、作業の意義、必要性、喜びを高める
等利用者に応じた援助を行い、かつ団体生活を通じて、自分の立場、周りに目を向けての友との協力、思いやりを養うようにする。

日課内容

受託簡易作業、基本的料理教室
さおり織り、レクリエーション
学習、絵画、音楽、スポーツ等

施設紹介

〈知的障害者通所授産施設〉

赤穂市立さくら園

所在地 赤穂市大津一三二七番地の

五六

電話 (〇七九一四) 二一三三四九

設立 平成七年四月一日

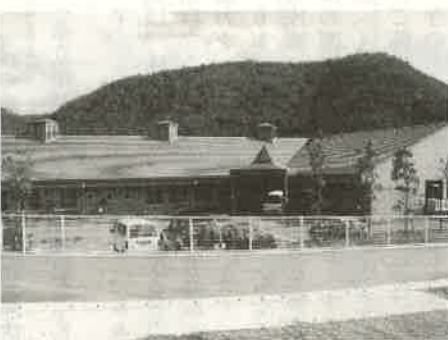
定員 三〇名

施設長 金子 和則

職員数 十名(嘱託医一名)

沿革

赤穂市手をつなぐ親の会の会員の熱き願いが実現して昨年四月に開所、従来、育成会が運営していた「わか



ば園」と「小規模授産所」を統合した形で赤穂市が設置・運営している

通所授産施設「さくら園」です。
利用者・保護者を始め、市民の期待に添えるべく、魅力ある施設作りに努めています。

施設運営方針

明るい、楽しい雰囲気の中で、学び、教え、支え合いながら、社会参加と自立を目指しています。

利用者が一人の人間として尊重され、内面に秘める内なる可能性が十分に発揮される場の提供を心がけています。

指導内容

就労・社会的自立を目指している利用者は授産作業を主体にしながら社会性を広げる援助を行なっています。特に障害の重い利用者には基本的生活習慣の獲得や、社会性、色々な場面での体験を増やすなどの援助に重点を置いています。

いずれにしても、自立するために必要と思われる事柄の中で、欠如している事を援助し「人間」の幅を広げるために、

一、個別援助目標や課題にそった取り組み

二、作業場面や日常活動での自主的な行動

への援助に努めています。

〔授産作業科目〕

一、本の箱詰作業

二、廃材銅線絶縁物除去作業他